

小金井市産業振興プラン（素案）に対する意見及び検討結果

意見募集期間：令和8年1月26日から同年2月25日まで

意見提出数：1人・2件

番号	項目	意見	回答
1	賑わいづくりと地域産業基盤の形成	<p>P 2. インターネット、ビッグデータ、ポイント経済による消費者志向の誘導が主体である現代においては、目的地と消費という古典的な行動経済方策以外にも、2の手、3の手を考えるべきではないでしょうか。確かに、花見、公園、観光客という小金井市の勝ち技を強みにしつつも、依存してしまった思考ではないかとも。例に挙げられた吉祥寺は、実は公園ではなく消費、飲食目的としても周辺から人が集まる街であり、その根底にはメディアや住みたい街ランク、ネットなどの情報への露出に起因しているのではないかと考えます。</p>	<p>御指摘の通り、情報社会の現代においては、「目的地があるから行く」という物理的な動機だけではなく、インターネット等を通じた多種多様な情報やデジタルコンテンツ等の複数の要素が複雑に絡み合い、多数の動機が生まれる中で消費者の行動が決定されると考えております。</p> <p>小金井の地域性を追求するユニークな小商いを多数生む地域産業基盤の形成、魅力の発信に取り組むとともに、事業者、市民などがコミュニケーションを図れる場を作ってまいります。</p>
2	方針①の取組	<p>P 1 3. 商店、工業、農業しかり、その集団である組織視点での方針は、既存の経済を保護し新規産業や相容れない新しい産業には相性の悪い方針になることもままあること注意が必要だと思います。新規の小規模なビジネスでも挑戦できる制度、予算、ハコモノなどでサポートする枠組みが行政であるのでは無いでしょうか。新しい産業は外から内に入ってくるものが殆どだと思います。特に東京に於いては、記載の無い予算部分が最も厳しく、その施策が必要に思います。</p> <p>例えば市営の市民からのサブスク→中央線テナント5年→駅前商店街などへの移転、など公園や農地、空き家、工業団地、リサーチセンター、大学サテライトベンチャー、駅前レンタルオフィスビルなどの施策も同様、予算の集め方に関する施策の薄さについてはまだ追加で議論ができるのでは無いでしょうか。</p>	<p>御指摘の通り、本市といたしましても、新たな挑戦に取り組む起業家等を含め、多様な資源を活用し、賑わいの創出や地域の活性化につながる施策を検討していく必要があるものと考えております。また、新規の小規模ビジネスに挑戦する制度につきましては、東小金井事業創造センター及び農工大・多摩小金井ベンチャーポート等を通じて、創業・企業支援を実施しております。これらの取り組みは方針②及び③に記載しております。</p> <p>予算の確保につきましては、国や東京都の補助制度の活用、その他の手法も検討してまいりたいと存じます。</p>

※提出された意見は、原則として原文のまま全文を掲載します。